



ライフ ヒストリー集

生活改善サークル(女性/青年層)
エルサルバドル
南ウニオン市 コンチャグア支所

女性の生活改善と青少年のビジョン形成を通じた幸せに過ごせる地域づくり事業
～開発ポテンシャルを活かすプロセス支援～
草の根技術協力事業（草の根パートナー型）



寄り添い活動

住民と共に歩む、
家々を訪ねる、
女性や青年層の話に耳を傾ける。
教えるのではなく、
住民自身が考え行動できるよう
促す・・・

これらは生活改善ファシリテーターの
一面です

簡単そうに聞こえますが、
プロセスのための時間と
献身的労力が必要なので
市職員が通常業務として実践するには
難しさもあります。

この2年間、コンチャグアでは、
生活改善アプローチを通じて
人づくりにフォーカスしてきました。

今回、生活改善サークルのメンバー数名の
ライフヒストリーに耳を傾けたところ、
自分自身で実践し
達成できたことの感情、
家族と工夫してやってみたアクション、
生活改善ワークショップ前後の
考え方や行動の変容を
それぞれが語ってくれました。

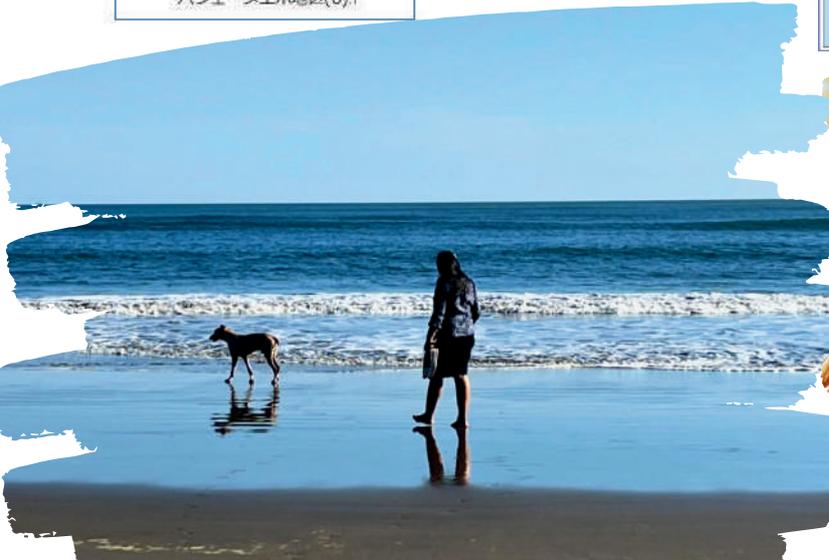
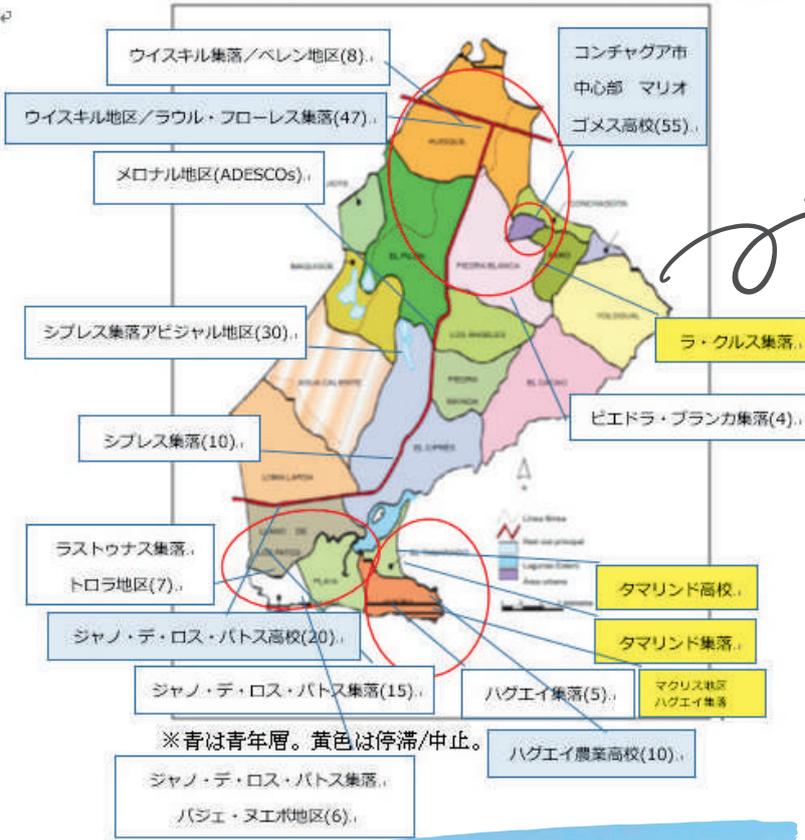
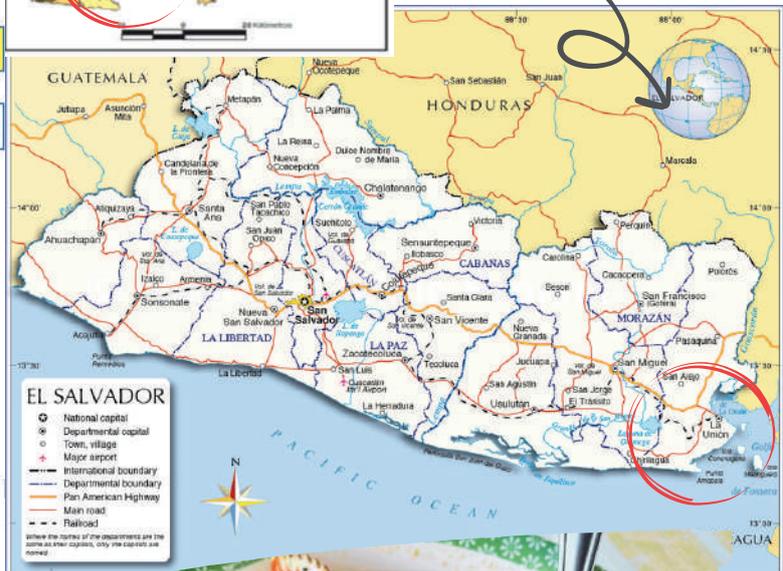
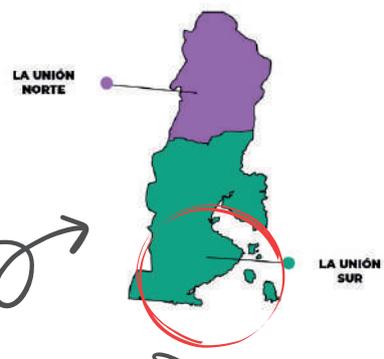
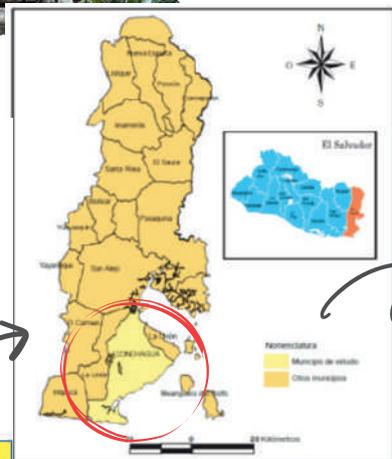
言葉の端々から滲み出る温かさをお楽しみ
ください。

和田彩矢子 Sayako WADA
(プロジェクトマネージャー/ IFPaT)

コンチャグアはこんなところ



LA UNIÓN 2 ALCALDÍAS



シルデル・スティブン・リベラ

生活改善サークル

”夢追う青年たち”

ジャノ・デ・ロス・パトス高校



こんにちは、僕はシルデル・リベラ。17歳。ジャノ・デ・ロス・パトス集落出身だ。3人兄弟の真ん中で、幸せな子供時代を過ごし、友達もたくさんいた。いつも好奇心旺盛で、新しいことを学ぶのが好きだったことを覚えている。

生活改善プロジェクトが学校で始まった時、僕は中学3年生だった。一見するとあまり興味を引かれず、「時間の無駄だろう」くらいに思っていた。

しかし、二回目のワークショップ『**お金をかけずに、自分のアイデアで生活改善をする**』のテーマの回から、自分の家や地域には改善すべき場所がたくさんあり、お金がなくても実践できることに気づき始めた。

その後、僕は自分の部屋を少し変え、整理整頓するようになった。

また、サークルの**他のメンバーにも**、自分達が通う高校や集落の改善活動をするよう働きかけ、**清掃活動、燻蒸消毒、植林、地域の水源の清掃**などを行った。



シルデル・スティブン・リベラ

生活改善サークル

”夢追う青年たち”

ジャノ・デ・ロス・パトス高校

『しあわせツリー』というテーマのワークショップを実践したあとは、僕は**家族と過ごす時間を増やすようになった**。

成績を上げるという目標を立て、家庭菜園で父をもっとサポートすることも決めた。

自分の部屋を改善するために貯金も始めた。

僕にとっての幸せは、家族が団結していることだとも気付いた。

今では家族との関係は改善し、家ではみんなが協力して家事をするようになった。そうすることで、私は家族の役に立っている、家族をサポートできていると感じられ、家族も僕を信頼してくれていると感じている。

僕が変わったと感じること；プロジェクトに参加し始めたころは、何か悪いことをした時に親に正されるのが嫌で、何度も親に反論し、何事においても親に反対していた。

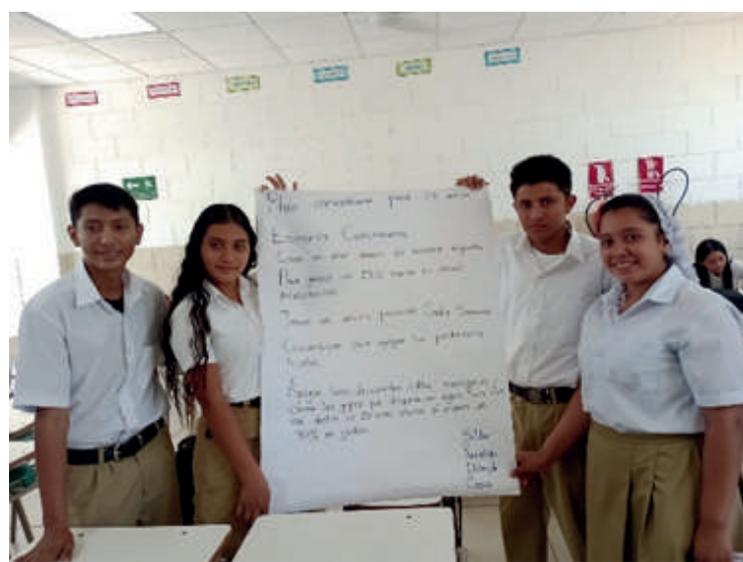
今は、両親の言うことをよく聞き、意見を求めるようになった。

何事もうまくいくように、**自分のやりたいことを計画することも学んだ。**

今は計画的に活動できる。

生活改善は私にとって素晴らしい学習体験であり、人生のさまざまな側面を向上させるのに役立っている。

僕の人生にこれだけの変化が起きた今、次の目標は、家族とともに実践を続け、仲間たちと共に個人・集落のアクションプランを実践し続けることだ。



カレブ・ネエミアス・
モレノ・アルバレス

生活改善サークル
"未来を担う青年たち"
ハグエイ農業高校



僕の名前はカレブ。19歳で、ハグエイ集落で生まれた。両親、祖父、兄弟8人と暮らしている。

子どもの頃から漁師である父の手伝いをし、漁師としての仕事は子どもの頃から学んでいる。

ボートに乗って海を眺めるのも好きだ。

今でこそクラスメートとも先生ともうまくやっているが、昔はそうではなかった。僕はとても面倒くさがりで、授業をほとんど重要視していなかった。

2022年、生活改善アプローチのプロジェクトが始まり、僕たちの学年が選ばれ、"未来を担う青年たち"とサークルを名付け、一員になった。

最初のころはワークショップを重要視していなかったし普及員が来た時は、授業から逃げるための手段くらいに感じていた。

でも時間が経つにつれて、個人的に変えなければならないことがたくさんあることに気づいた。

まずは自分の態度や言葉遣いから改め始める事にした。だって、とても乱暴だったから。

最初はとても大変だったけれど、**少しずつ態度が変わり、自分にはたくさんのスキルがあることに気づいた。**

学校の課題で先生やクラスメートをもっとサポートするようになった。



カレブ・ネエミアス・
モレノ・アルバレス

生活改善サークル
"未来を担う青年たち"
ハグエイ農業高校



僕は生活改善アプローチの普及員が紹介してくれた**起業家支援プログラムへの参加を決めた**。食品衛生に関する技術と食品の扱いを学び、**将来は起業家になって家計を支えたい**。

自分の商品のロゴ作成も行いたい。

若者として、自分がやろうとした多くのことを達成できていると感じている。

僕が変わったと思うことのひとつは、自分の態度だ。僕は他人と分かち合うことが好きではなかったので、クラスメイトとうまく付き合えなかった。

今は人間関係が改善され、**友達も増え、ともに時間を共有するようになった**。言葉遣いも改善している。学校の活動としては、先生と一緒に**木や植物を植えた**。

僕の次の目標は、自分のビジネスを始め、生活改善アプローチを実践し続けることだ。



デイシ・マリセラ・
ビジャヌエバ・チャベス

生活改善サークル
"勇敢な女性たち"
ジャノ・デ・ロス・パトス集落



こんにちは。私はマリセラ・ビジャヌエバ。1978年4月30日にサンサルバドルのジョパンゴで生まれました。私は子供の頃、幸せだったことをよく覚えている。

2022年4月に会合に招かれ、生活改善プロジェクトを紹介された。何かの活動に参加することは前から好きだったが、**私たちの日常生活についてのワークショップであることに衝撃を受けた。**

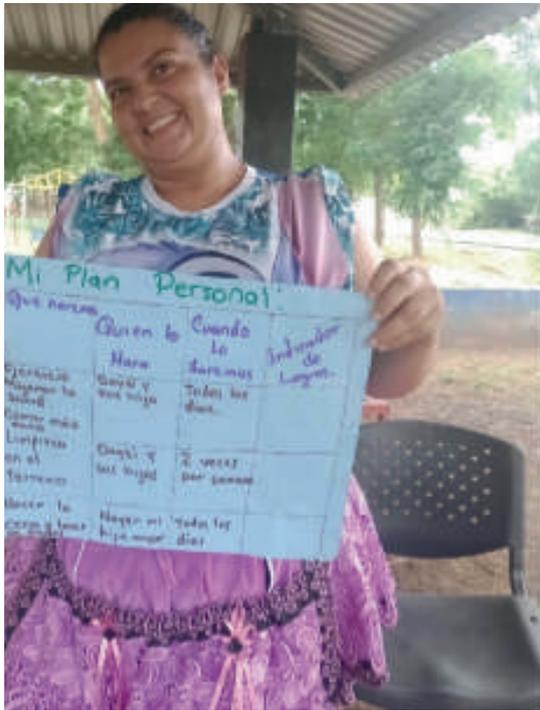
私はどのワークショップのテーマも気に入り、**自分の生活のさまざまな側面を改善することを決めた。**

ワークショップでは様々なテーマが与えられたが、私を考えさせたあるワークショップがあり、その時から、例えば娘たちと散歩に出かけたり、時には家族で散歩したりと、いくつかの行動を取るようになった。それは『**しあわせの木**』というワークショップだった。このテーマは私の人生を決定づけた。

「あなたをを幸せにするのは何？」と問われた時、私は**自分自身でいられることに幸せを感じるものの、人生で自分自身でいられることがほとんどないことに気づいた。私は泣きそうになった。**というのも、私自身としては、身体的な健康だけでなく、精神的な健康をも回復癒しを得ようと、取り組んでいる最中だったからだ。

デイシ・マリセラ・ ビジャヌエバ・チャベス

生活改善サークル
"勇敢な女性たち"
ジャン・デ・ロス・パトス集落



今は自分のことをもっと大切にしている。食事に気を遣うようになり、運動をして、健康的な食生活をする。

それが私を幸せにしてくれる。

私は自分自身を愛し、他の人々に影響を与えることができると感じている。今では、自分の強い精神力を感じられる。

もうひとつ、自分が変わったと感じる事...プロジェクトを始めたころは不安で、自分を信じるのが難しかった。

生活改善サークル会合を重ねるうちに、**自分の能力に気づき、日に日に力が湧いてくるのを感じるようになった。**



今では、他の女性たちと一緒に活動に参加したり、自分の好きなことで起業をしたり。つまり**主体的になって、人生が大きく変わったと感じている。**

自分を向上させるため、何かをするたびに、とても幸せな気分になる。

娘たちや夫も私の変化を見てくれていると思う。

健康管理、健康的な食事、運動、やりたいことを計画すること、整理整頓、決断力など、自分でできることがすべてを変えるのだと実感している。

そう、私は自分自身に多くの変化をもたらしたと思う。

次の目標は、自分のビジネスを日々大きくしていくために

家と自分のスペースを改善し、自分の心身の健康に気を配り続けることだ。



新しく始めた家での軽食屋起業。看板も手作り

ジャンシー・ ポサダ・デ・マルキーナ

生活改善サークル
"勇敢な女性たち"
ジャン・デ・ロス・パトス集落



こんにちは。私の名前はジャンシー・ポサダ。1983年にインティブカ市ラ・レオナ集落で生まれた。

私は生活改善サークル"勇敢な女性たち"に所属しており、2022年4月から保健プロモーターの紹介で参加している。最初のワークショップのテーマから、それらを実践することにとっても興味を感じ、日常生活に必要な小さな変化を起こすために、ちょっとした導きが必要なのだと気づいた。



最初に思ったのは、自分のための時間が必要だということだった。というのも、幼い子供たちがいた頃は、忙しすぎて鏡で自分を見る機会さえなかったからだ。

また、子供たちが炭酸飲料にはまっていたので、家庭内での消費量を減らす必要性も感じていた。私は庭を改善するために再利用できる資材のリサイクルを始めた。



ワークショップの『お金をかけずに、自分のアイデアで生活改善をする』というテーマに触れた時、私は自分の家をより良く、より広く、より快適にするためのアイデアを得た。

ジャンシー・ ポサダ・デ・マルキーナ

生活改善サークル
"勇敢な女性たち"
ジャンノ・デ・ロス・パトス集落



夫と一緒に貯蓄を始めた。
カバードポーチを改良し、洗濯を
している時に、強い日差しに悩まされ
なくて済むようになった。
それから、家の床を張り、満ち足り
た幸せな気分を感じている。

また、家族が家事に参加してくれる
ようになり、家庭内の調和が取れて
きたと感じている。そのおかげで、
子どもたちと一緒に家事をしたり、
時には実家に遊びに行ったり、一緒
に散歩に出かけたりすることができ
るようになった。

私にとっての "生活改善" とは、女
性として自分自身を見つめ直し、
自分自身から始めて、家族に影響
を与えるためのツールである。

私の次の挑戦は、貯蓄を続け、夫
を支えること。というのも、私た
ちは一緒にビジネスを始める計画
があるからだ。今研修を受講して
いるところ。

私たちは共に協力しあって、子ど
も達を成長させたいと思ってい
る。

ヌリス・ ジュディス・メヒア

生活改善サークル

“海の真珠”

ラス・トゥナス集落トロラ地区



私の名前はヌリス・ジュディス・メヒア。36歳で、1987年11月25日にトロラ地区で生まれ育った。

2022年5月、私はADESCOs (コミュニティ開発協議会) の会長に招かれ、生活改善アプローチの普及員に出会った。彼女は私たちにプロジェクトを紹介し、参加したいかどうかを尋ねてきた。

どのテーマもとても素敵でわかりやすく、**悪い習慣を改めたい**と思うようになった。

テーマが与えられるにつれてどんどん興味が湧いてきたが、中でも特に気を引いたのは『**私の1日、私たちの時間**』という題材のワークショップだった。

それ以来、私は行動を起こすようになった。以前は家事を早く済ませるために朝食を食べず体調を崩したりしていたが、**自分の時間を取るようになり、朝食をとるようになった。**

以前はとても怒りっぽくて、大声を出してよく子どもを叱っていたが、**怒鳴ったり怒ったりするのをやめた**ことで、子どもたちや夫との関係が改善された。

彼らと話し合い、**今では家事にも協力してくれるようになった。**それで私も気持ちが落ち着いている。

また食後はしばらく休憩するようになって、今はイライラすることもなくなった。**自分のペースで物事を進め、より健康になった**と感じている。

ヌリス・ ジュデイス・メヒア

生活改善サークル
"海の真珠"
ラストゥナス集落トロラ地区



このプロジェクトが始まったころは、テーマを発表したり、聴衆の前で話したりできる気がしなかった。今ではできるようになったし、自分にはそれができると感じている。



夫と私の貯金で家を改善することにした。柵を作り、木を植え、洗濯機からの水が中庭に水たまりを作ることなくなった。今はパイプで木のところまで水を運び、水の再利用もしている。



私自身、そして家族とともに、大きな変化を遂げることができたと感じている。
また新たな目標を設定し、個人のアクションプランで決めたことを実行したい。
もっと活動に参加し、地域のリーダーをサポートしたい。
これからも、家族で築き上げてきた良い習慣をさらに強化していくつもりだ。

レイディ・カロリーナ・ ボニージャ・デ・メンドーサ

生活改善サークル

“勇敢な女性たち”

ジャン・デ・ロス・パトス集落



ワークショップ『お金の
からない改善、自分のアイ
デアでの改善』と『マッピ
ング/動線分析』の後、私
たちはトルティーヤを作る炊
事場と洗濯室の屋根が必要
だと思い始めた。という
のも、私は炎天下の中
いつも作業していたし、
雨が降ると濡れていた
から。

私はレイディ。33歳の女性で、ジャン・デ・ロス・パトス集落で生まれ育った。

2022年5月から“勇敢な女性たち”サークルの一員だ。

普及員が誘ってくれ、二人の姉妹がすでに参加していたので、私も参加することにした。

私は広い集落の中でも、遠方に住んでいるので、サークルに参加するためにはバスに乗らなければならない。でもサークルに参加すると、参加している仲間に会えるの。友達になれたので、皆に会うために通ったの。

サークルに参加し、活動に参加することで、自分に価値があることや、私たち女性が家族にとってどれほど大切な存在であるかを実感することができた。

最初のテーマから、私は自分自身と家族に変化をもたらしことができると気づいた。

私の最初にした行動のひとつは、学んだテーマを夫と共有することだった。そこで夫が率先して私をサポートし、良くなるようにと動いてくれた。

夫と一緒にやった改善は家の中への水場の設置。家の動線分析をしたときに、水場が外にあって、毎回何歩も歩いて疲弊していた事に気付いた。その後一度夫が一人で子供を家で見ることがあり、家事をした際、何往復もする必要がある事を体験したの。

それですぐに台所の中に水道の設置が必要だと気付いた、と言って作ってくれたの。おかげで、毎回毎回料理のための手洗いや、野菜を洗うたびに外に行く必要がなくなったわ。

これで、料理の時間がとても節約できるようになったし、疲れなくなった。



レイディ・カロリーナ・
ボニージャ・デ・メンドーサ

生活改善サークル
"勇敢な女性たち"
ジャン・デ・ロス・パトス集落

私は以前、自分の健康をないがしろにしていた。体調不良の日が続いていた時も、診療所に診察には行かなかった。日を追うごとに気分は悪くなり体調は悪化した。重い病気ではないかと心配にもなった。

度々、生活改善アプローチの普及員は、私を訪ねる度に、診療所に行くよう勧めた。でも病院で苦い経験が過去にあったので私が行かなかった。それを見て、彼女は保健プロモーターに支援を依頼した。

保健プロモーターが来て、短い会話の後、まず妊娠の可能性を除外するために、妊娠検査を受けるよう勧めた。

検査結果は驚くべきことに、"陽性"。第5子を授かっていた。

悲しいことに、治そうとして度々強い薬草を飲んでしまっていた。妊娠だとは全然想像もしていなかったから。

ここで私は、**女性として、私たち自身の、自分のための時間をとること、健康に気を配ること、そして何よりも検診を受けることが重要であることを理解した。**この経験から、私はもう子どもを持たないつもりだ。



今では自分に自信が持てるようになり、自分を大事にし、医者に行くのも怖くなくなった。家族も家事に参加してくれるようになった。

自分の生活環境の改善となるよう小さな変化を続けていきたい。そうすれば家族が幸せになり、家も素敵な空間になると思うから。

私の次の夢は、菜園を家の隣に移し、子供たちと過ごす時間を増やしつつ、菜園を管理することだ。

無事に健康に生まれた赤ちゃんのお世話もパパが。

グレンダ・ノエミ・
コントレラス・マルチネス

生活改善サークル
"神の祝福"
ピエドラ・ブランカ集落



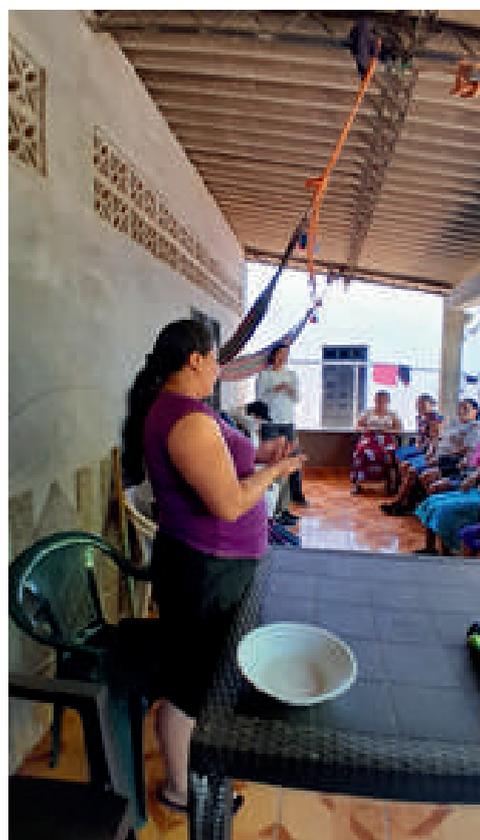
こんにちは。私はグレンダで、1988年2月15日にピエドラ・ブランカ集落で生まれ、ずっとここに暮らしている。

2022年5月、コンチャグア市役所のファシリテーターたちが生活改善アプローチ・プロジェクトの説明をしに来た。**彼らが生活について語っていた**ことに気が引かれ、ワークショップに参加したいと思った。

私が考えさせられた2つのワークショップは、『**家を歩いて分析（マッピング）**』と『**私の1日、私たちの時間**』だった。自分の家を描くというワークをした時、**私は片付けをして家をきれいに保たなければならないと感じた。**

そして、私の1日の時間の使い方を、24時間の円の中で活動内容を書いていくうちに、**自分のための時間がなく、まったく休めていないことに気づいた。**

その瞬間から、私はある行動を始めた。**休息する時間を作ったり、散歩に出かけたり、少なくとも月に一度は家族で散歩に行くようになった。**自分の時間がないことに気づくのは難しい。というのも、**女性として働き、家族の面倒を見なければならないということに慣れてしまっているからだ。**



グレンダ・ノエミ・
コントレラス・マルチネス

生活改善サークル
"神の祝福"
ピエドラ・ブランカ集落



プロジェクトを始めたころは、とても
恥ずかしく、集会で発言するのはとて
も難しかった。それがとても悲しく感
じていた。

でもご覧の通り、今では人前で話せる
ようになった。集会やフォーラムに参
加して自分の意見を言うことが恥ずか
しくなくなったと感じている。

自分を向上させるために何かをするたび、とても幸せな気分になる。

健康に気を付け、健康的な食事をし、運動するなど、自分のためにできること
を行うことで、すべてが変わる。健康的な食事とは、**野菜や果物を食べるよ**
うになること。実は以前はそんな食事をしていなかった。



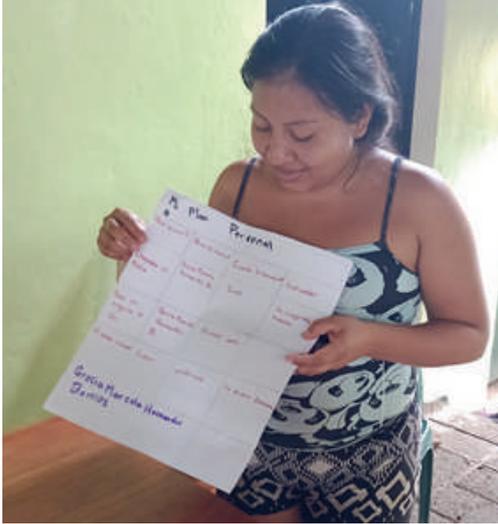
私自身として、ずいぶん成長したと思う。

次の目標は自分の家を建てること。父からもらった土
地があり、**お金を貯めている**。砂利と石と砂は**もう買**
ったから、次はレンガを買うこと。家を建てるまで、
こんな感じで少しずつやっていくつもり。



グレシア・エルナンデス

生活改善サークル
“未来ある女性たち”
ハグエイ集落



私はグレシア・エルナンデス、27歳。サン・ビセンテ市で生まれ、夫が住んでいるところで仕事が見つからなかったため、仕事を求めてハグエイ集落に引っ越した。ここで私たちは家を見つけ、そこに住むために家を貸りた。夫が高齢者介護の仕事を始め、私は家事に専念していた。しばらくして、今は3歳になる三女が生まれた。



私は普及員に誘われ、2022年からこの集落で“未来ある女性たち”のサークルの一員として活動を重ねている。私が特に気に入ったワークショップは、『**お金のかからない改善、自分のアイデアでの改善**』というテーマだった。というのも、お金をかけずに家を改善するための資源は身近にたくさんあるって気づいたから。また、自分自身で改善できるっていう事も面白い。家族を含めて自分の健康に気を配りながら、改善のアクションためにお金を使う必要はないと気づいた。



私は少しずつ、自分にはたくさんの技術があることに気づいた。母親である自分でも、私は**新たな仕事を学ぶことができた**し、それを基に何かをする事で家計を支えることができると気付いた。

グレシア・エルナンデス

生活改善サークル
"未来ある女性たち"
ハグエイ集落



私は、普及員による家庭訪問の度に、パン作りを習いたいと良く話していた。普及員から紹介され、職業訓練支援プログラムに参加することにした。

そこでパン作りの6カ月間にわたる専門トレーニングに参加した。

早朝から起きて遠くの町まで通うのはとても大変だった。でもその価値はあった。

今では私は家計を支えることができる。注文に応じてパンを作っているの。また、オープンを買って起業するため、誕生日ケーキを販売してお金を貯めている。

このプロジェクトを始めた頃は、友達もいなかったし、他の女性と話すのもあまり好きじゃなかった。

今は人間関係が良くなった。友達や仲間も増え、一緒に過ごす時間も増えた。

今や、私は娘たちとの時間を大切にできるようになり、宿題を手伝ったり、家事を教えたりしている。排水改善、環境美化として、木も植えたし、洗濯機の水が中庭に流れて水たまりになることもなくなった。今ではパイプを何本か使って、その水を菜園に運び、排水を再利用している。

私の次の目標は、ビジネスを確立し、生活改善を実行し続けることだ。



マリア・
ネリー・インテリアーノ

生活改善サークル
シプレス集落アビジュアル地区

私は1958年1月10日、サン・ミゲル県サン・アントニオ市エル・ポルティージョ集落で生まれた。

私の子供時代は貧しく、住むところもなかった。

40年前の1983年に結婚した。1997年にアビジュアル地区に来て、住み始めた。



プロジェクトを紹介された時、まず私たち自身を一番大事に考えよう、その次に他の人の事、と聞いて、このプロジェクトが一気に好きになった。最初の日から気に入って、ワークショップを一度も欠席したことはない。まず自分自身の健康に気を遣うようになった。コーヒーをたくさん飲むのをやめて水を飲むよう工夫した。家族の健康にも気を配るようになった。



『家を歩いてお宝さがし/マッピング』のワークショップで、私は水を貯めておくのに苦労していることに気づいた。

そこで流し台を作るために貯金することにした。

今はこの通り、水を運ぶ必要がなくなり、家事がとても楽になった。身体をもう少し休められるようになった。

家族の食事にも気を配るようになった。今も継続して様々な野菜や葉物類を多く摂るようにしている。コーヒーの量はかなり減らすことができた。加えて、私が学んだことはすべて家族に伝えていて、これはとても役に立っている。

私は個人レベルの改善アクションプランを立て、トイレを作ることを決めた。今はそのための貯金をしている。

やろうと思えばできるということがわかった。

これによって私は大きな幸せを感じている。何かを心に決めれば、それを達成できると知ったのだから。生活改善は私に自信を与えてくれた。

今度はあなたの番！ ライフヒストリーを聞かせて！

名前：

グループ（可能性）：

地域：

これまでのあなたはどんな行動をする人でしたか？

自分の生活改善のためにどんな行動を起こそうと思いますか？

あなたを幸せにする要素は何ですか？

あなたの、個人の、家族の、地域の将来の計画は？



生活改善ワークショップ

～私の暮らし、私の家庭～

#01 生活改善とは？

外部支援を待つだけでなく、暮らしのために自身で多々工夫ができる！

#02 お金のかからない改善、自分のアイデアでの改善

自分の創造力とリソースを活用すれば、自分で暮らしは改善できる！

#03 家を歩いてお宝さがし ～マッピング～

家の宝物(人、もの、場所)を再確認すると同時に、課題を分析する！

#04 暮らしの見直しと将来像

「信号」分析を活用して、5年後の私の暮らしと家のビジョンを持とう！

#05 私の1日、私たちの時間

自分の時間をどう使う？

#06 幸せツリー

自分が幸せであるため、どんなアクションをする？

#07 個人のアクションプラン

分析に基づいて、最初の行動を開始しよう

#08 振り返り

外からの評価ではなく、自分自身の活動振り返り！



生活改善ワークショップ ～自尊心～



#01 自尊心向上

大切な存在として自分を認めて大切にし、今の自分を好きになろう

#02 ありのままの自分を大切にする

自分自身を自己認識し、気に入ってないところさえも大切にしよう

#03 他人から見た新たな自分

他人が私の良いところを発見する

生活改善ワークショップ ～私たちのコミュニティ～



#01 私たちのコミュニティのマッピング

地域の宝を掘り出し、問題点を分析する！

#02 私たちのコミュニティのアクションプラン

みんなで役割分担をして全員で取り組むことで、多様な事ができる！

#03 コミュニティ活動振り返り

実践した活動は相互協力でできた？次のステップは何にしよう

#04 私たちのコミュニティの10年後のビジョン

10年後のビジョンや方向性を確認する事で、皆で協力して
ますます発展していくことができる！

女性の生活改善と青少年のビジョン形成を通じた
幸せに過ごせる地域づくり事業
～開発ポテンシャルを活かすプロセス支援～

草の根技術協力事業（草の根パートナー型）
【生活改善アプローチ】

編集/IFPaT



Cecilia Patricia Villarta, プロジェクトコーディネーター
Ana Ruth Rivera, プロジェクト生活改善普及員
小林沙羅, ファシリテーション支援
和田彩矢子, プロジェクトマネージャー



元生活改良普及員
片山寿美子
本橋修二
生活改善グループメンバー
石島和美
石島敦子
鈴木由加
九栗貞子
編集補佐
錦織紀子
西小枝

連絡先

NPO法人：
国際農民参加型技術ネットワーク
<http://npoifpat.com/>
wada.saya@npoifpat.com



NPO法人
国際農民参加型技術ネットワーク (IFPaT)
International Farmers Participation Technical Net-wor



2021年3月～2024年5月
南ウニオン市 - 国際農民参加型技術ネットワーク - JICA

